

令和3年度 「ハッピー♥スマイル」 第2回開催報告

【日 時】 令和3年11月21日（日）13時～

【場 所】 各家庭（オンライン開催）

【参加者】 保護者8名 救急救命士1名

医師2名

井上徳浩先生（大阪南医療センター）

田野成美さん（大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル

「Smile.Smile」）



1 開 会

福嶋啓祐先生

2 井上徳浩先生との座談会

今回は、井上先生のご理解と田野さんのご協力により Zoom を使用して初めてのオンライン開催となりました。

まず、井上先生に日本健康子ども科学会で発表予定の演題の紹介をして頂きました。

- 野を超え、山を越え、体制作りと治療はみんなで力を合わせて
～岡山県浅口市と大阪南医療センターの医療連携を振り返る～

「浅口市において、学校現場を中心とした食物アレルギー対策が進められ、大阪の患者会と力を合わせ、医師会・教職員・患者家族・救急が一同になって地域の食物アレルギーの対策、患者会の立ち上げを行った。地域でままたらない治療に関しては大阪南医療センターが協力して、医療も患者会も同時に連携した。生活面では緊急時の対策を進め、症状の改善と双方向の変化により安心して過ごせる部分が多くなった。」

「本事例は、医療・学校現場・救急・地域社会という多岐にわたる問題解決に取り掛かっている。多職種による連携が必要な部分も医師会を中心とした動きで、大阪の患者会の助言を踏まえ達成している。それだけにとどまらず、治療に関しては同じような境遇の子供の改善を見て次々と専門医の医療を受診し、患者会の情報交換が治療に一役買っている。かかわった職種すべてが同じ方向性をもって達成したことで、力を合わせて大きな進歩につながった。離れた地域だが、子供たちの健康に大きく貢献できたことを実感した。」

その後は、参加者の方のお話を聞きながら、井上先生がアドバイスを下さり、また田野さんもフォローしてくださり、笑いあり、涙ありの楽しい時間でした。

- 牛乳は途中まで行って止まることがあるが、微量でも可能な量を取っておく。
- 今、可能な量で、お子さんが嫌がらない量をとっていだけで治っていく。
- 思春期は何が何でもみんなと同じ給食のためというより、外食できるようになることを目標にする。
- 食物アレルギー以外の悩み（にきび、友達、勉強）が出てくるのは嬉しいこと。
- 初めての診察で他の病院では無理だと言われたことも、井上先生は大丈夫、大丈夫と言われて感動して嬉しかった。（涙）
- ※大丈夫、を教えて下さったのは大矢先生（成育医療研究センター）。大矢先生は「先生が治ると思っていないアレルギーは治せない」と教えてくれた。治るか治らないかの距離感がわかってくるようになった。
- ハッピースマイルに出会えただけで治るかもしれない、と真っ暗な世界に光が差した。そのときに大阪行きを決めてまったく遠いと思わず、治るなら行こうと思った。大阪に行ったら、今まで痒くて夜もなかなか眠れなかったのに、その日はじめて朝までぐっすり眠れた。涙が止まらなかった。
- 卵そのものは食べられなくても、ケーキ（12g）が1個食べられるくらいでよい。
- 卵を食べていくと卵の匂いが嫌だという子は粘膜の症状だったりするので、それが感じないものを無難に食べていると卵の数字が下がっていく。

○浅口医師会福嶋会長

決してあきらめないこと、自分が思っているよりみなさんが前に進んでやっていることがわかった。医師会ができることは行政とのかかわり、教育委員会は積極的に動くと感じられないお母さんも多いかもしれないが、その場合には医師会が入ることで働きかけやすくなる。前向きになっていく行政、教育委員会が増えている。活動をアピールすることで活動の輪が広がり、さらに成果が上がると思う。浅口医師会もできる限りの応援をします。



今回は、井上先生のご理解と田野さんのご協力により、初めてのオンライン開催でした。県外の方とも気軽に顔を見ながらお話ができました。久しぶりの再会で、楽しかったです。井上先生には休日にもかかわらず、時間を割いて頂き本当にありがとうございました。先生の熱い思いを胸に、また前向きに治療に取り組んでくれるものと思います。次回は、**令和4年1月16日（日）浅口市健康福祉センター**で開催します。情報交換の予定です。新型コロナウイルス感染症の状況により、中止するかもしれません。事前にホームページでの確認をお願いします。

（浅口医師会 高山晴彦）